

谷中部研究だより

河北町立谷地中部小学校

R6. 7. 5

NO. 1

～仲間と関わりながら、学び方を身に付ける子どもを育てる～

授業研から学び、ステップアップ

授業を通して、集団の中で子どもがどのように思考し、変化し、深まっていくのか、児童の学びの様子を見取ることができました。事後研究会では、子どもの学びをもとにした改善策や代案が出され、積極的な話し合いがなされました。（どうもありがとうございます！！）同僚の授業研は、自分の授業に生かせることを見つけるチャンスでもあります。みんなでステップアップしていきましょう！

<3年算数科の授業>

【話し合いから】

視点1：課題を自分のものとして受け止め、自分で自分の学び方をさがすための工夫

- ・自分事となる課題や環境作り

○測りたいと思えるものがたくさん準備されていた。

→巻尺の良さと生活での実用性を意識できると、測りたいものの中から意図をもって選ぶ姿が見られたのか

- ねらいをしぼる必要があった。（cf；たくさん測る・正確に測る・見当をつける）

→付けたい力が焦点化されることで、活動の意味が見えてくる

視点2：課題解決のために、対話的・協働的に学ぶための工夫

- ・困り感や疑問を解決したいという思いから生まれる交流

○初めての立体を習字のピンに揃えたことで、同じものを測っていても測り方や測る位置によって数値に違いが表れ、必然的な交流があった。

→このズレを活かして、より探究できる、協働できる場面を作ることができたのでは

視点3：自分や友達の良さや成長を実感できるようにするための工夫

- ・めあてとまとめの整合性

○本時のまとめを子どもたちの言葉でまとめることができた。

- 何をふり返るのか・自分に身に付いた力は何か

→めあてがはっきりすることで、まとめがすくとんと落ちるようになるのでは

【ご指導】

□鈴木 玄輝 指導主事（河北町教育委員会）

- ◆自分事になる課題設定になるかどうかを、教師はよく吟味する必要がある
- ◆個々もつズレを教師が見取り、全体で共有して、正確な認知につなげていく
- ◆算数という教科の本質に迫るための手立てをもつ

（cf:算数用語を用いて、事象を説明する力を身に付けるための手立て）

<5年国語科の授業>

【話し合いから】

視点1：課題を自分のものとして受け止め、自分で自分の学び方をさがすための工夫

- ・情報源の準備や活動の流れの共有

○司書さんの協力をいただき、たくさんの本から世の中に当たり前のように存在するUDに触れることができ、自分が伝えたいものを選択する必要性や楽しさがあった。

●インターネットから情報を得ることの難しさがあった。

→検索ワードと自分が伝えたいことがリンクしていくことで、自分が欲しい情報を最短距離で得るとい
う社会で使える力にもつながっていく。

視点2：課題解決のために、対話的・協働的に学ぶための工夫

・対話の在り方

●友達と一緒にの空間で学習する意味をもたせたらよかったのではないか

→本時で狙わんとするところが、個の学習・自分の課題との対話という形をイメージしていたため、協
働的なかわりを促すことができなかった。必要な場面で、自ら交流できる子どもたちになりつつあ
るので、有益な交流になるような場面を教師側がしっかりデザインしていく。

視点3：自分や友達の良さや成長を実感できるようにするための工夫

・自己の変容をふり返る

○本時のめあてに立ち返って、自分がその時間にがんばったと思えることやできなかったからこそ次時
への思いを高めることができた。

●ロイロノートを活用している点からも、振り返りをロイロ上に残していくという活動にしてもよかつ
た。

□森岡 裕香子 指導主事（村山教育事務所）

◆学習指導と生徒指導の一体化（授業中のルール、学習環境の整備、指導者の声掛けなど）

◆重点をしぼる

◆内なる思いを言語化する

<みなさんと共有しておきたいこと> 指導主事の先生方から

(1) 単元名は、教師の思いが表れてよい！

今回の5年国語では、みんなが使いやすいデザイン ～伝えたいことを整理して、報告しよう～でした。
この中で、子どもたちにつけたい力・どんなことができるようになってほしいのかを考えたときに、～か
ら後の部分に教師の思いが表れていると考えます。今回の単元名は伝えたいことを整理して、報告しよう
と記載してもよかつたのかなと感じました。

別段に教材名＝みんなが使いやすいデザインを明記することで、より教師の思いが伝わる指導案の出だし
になるのかなと思いました。

(2) 指導案のスリム化について

指導案の記載する内容について、簡素化できることはないかと思い、指導主事の先生方に伺いました。

①全体研（大研）では、単元の目標・評価規準をきちんと記載するというご指導いただきました。

その際、指導要領と指導と評価の一体化（国研）を参照し、そこから必要な部分を選んで活用されると
よいかと思います。（どちらの資料も、給湯室ストーブの上の棚にあります！）

②ブロック研（小研）では、省略可能な部分が増えてもいいのではないかとご指導でした。（例えば、
単元名・単元計画（評価規準を入れ込んで）・本時案（A4）にするなど！）

ぜひこれからのブロック研の先生方には、こちらのバージョンでお書きいただき、指導案作成にかかる
時間が短くなればよいと思います。

次回の全体研 7月17日（水） 阿部凜太郎先生 長岡菜月先生（総合）
よろしくおねがいいたします！！

